

2019 年 1 月 18 日

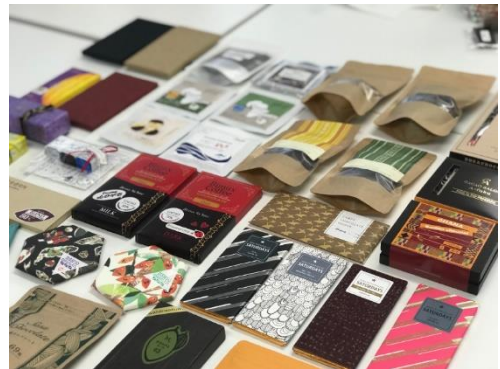
報道関係者各位

エシカルなチョコレートの選択肢を拡大 ガーナ政府を動かした ACE の 10 年の取り組み

グローバルな児童労働問題の解決をめざす認定 NPO 法人 ACE（東京都台東区、代表 岩附由香）は、チョコレートの原料カカオの生産における児童労働をなくし、生産者から消費者までつながる人々がしあわせになれるチョコレートがあたりまえに手に入る社会を実現したいとの思いから、2009 年に「しあわせへのチョコレート」プロジェクトを開始しました。その一環として、日本が輸入するカカオの 8 割を生産するガーナで、子どもの教育とカカオ農家の自立をめざす活動を続けてまいりました。

これまでの 10 年で、アシャンティ州の 8 村（総人口約 8,000 人）で 454 人の子どもを児童労働から解放して就学を実現。住民による児童労働解決システムを構築し、「チャイルドレイバー・フリー（児童労働が介在しない）」カカオの生産と輸入に成功しました。この原料を使用したエシカルなチョコレートは、森永製菓をはじめ 20 ブランドから 70 品目あまりが発売される規模にまで広がりました。昨年 11 月には、ACE がガーナ政府と連携し、児童労働のない地域を広げるための制度作りにも着手しました。

これらの取り組みは、消費者によるチョコレートの購入を通じた寄付や、チョコレート関連企業との連携により支えられてきたもので、ACE では、今後の活動を前進させるために、この取り組みに賛同する企業や消費者のさらなる参加を呼びかけています。1 月 22 日には、この 10 年の活動を振り返るイベントを東京で行います。これまでの経緯と今後の展望について、下記の通りお知らせいたします。



記

1. ガーナでの児童労働削減と「チャイルドレイバー・フリー・ゾーン」の拡大

日本に輸入されるチョコレート原料のカカオ豆は、その約 8 割がガーナ産です。ガーナのカカオ産業では未だ児童労働が行われ、その数は約 90 万人ともいわれています（2015 年、チュレーン大学）。グローバルなチョコレート企業や政府もその解決に取り組んでいますが、問題は解決されていません。

ACE は 2009 年より、ガーナ、アシャンティ州とブロン・アハフォ州のカカオ生産地で、働く子どもを劣悪な労働や人身売買から守り、学校に通えるようにするための支援活動を続けてきました。また、教育環境の整備・改善やカカオ農家への技術訓練などによる収益向上をめざした支援を行ってきました。

2016 年春には、日本の商社の協力を得てガーナの ACE 支援地で生産されたカカオ豆を日本に輸入し、菓子メーカー、ショコラティエ、Bean to bar ブランド等への供給と製品化を開始。これを契機に、「チャイルドレイバー・フリー・カカオ・イニシアティブ」を始め、原料としての支援地産カカオの取り扱いの拡大、消費者啓発を通じた児童労働問題の認知向上、ACE へのご支援を活用した現地での取り組みの強化を図ってまいりました。その結果、ACE の支援地では、住民自身が主体となり児童労働の撤廃と再発防止を担保できる仕組みを作ることに成功し、児童労働に頼らないカカオ生産が定着いたしました。



今後は、支援対象地の更なる拡大と支援地産カカオの流通の増加を図り、カカオ豆の生産者からチョコ

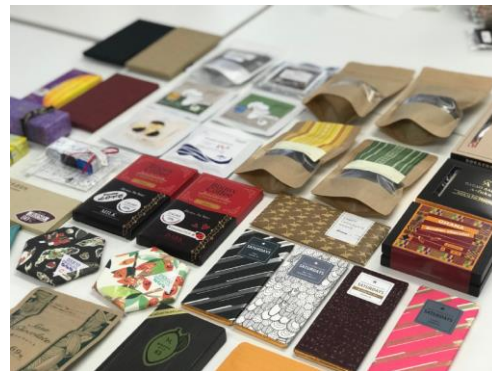
コレートメーカー、消費者までを貫く児童労働の介在しないサプライチェーンの構築と、安定的かつ持続的な生産から消費というビジネスサイクルの確立による「児童労働のない」状態の恒久化を目指します。

2. 「チャイルドレイバー・フリー」チョコレート商品の拡大

原料としての ACE 支援地産カカオの取り扱いが進んだ結果、2019 年 1 月 15 日に森永製菓株式会社より発売されたカレドショコラの新商品「リッチクリーミーミルク」や同日、株式会社白寿生科学研究所から発売された「笹チョコレート」を含め、2019 年 1 月現在で、20 ブランド、約 70 品目のチョコレート製品に ACE の支援地産カカオが使用されており、プロジェクトを開始した 10 年前に比べ、消費者が求める「エシカル」なチョコレートの選択肢は大幅に広がりました。

今後、この取り組みに賛同する企業が増えることにより消費者の選択肢がさらに広がり、チャイルドレイバー・フリーのチョコレートが消費者にとってあたりまえのものになるよう、メーカーに呼びかけるとともに、消費者に向けても、カカオ産業での児童労働の現実を知り、児童労働を介さない生産地のた原料からできた商品を支持するよう、啓発活動に努めてまいります。

(ご参考) 支援地産原料豆を使用した製品の例



3. ガーナ政府との協働

昨年 7 月に、世界最大のカカオ豆供給地で、ガーナ同様、児童労働者が多いことで知られるコートジボワール、アビジャンで国際会議「CLCCG(*) ステークホルダー会合」が開催された際に、ACE 事務局長の白木朋子がガーナでのこれまでの活動について発表する機会があり、労働大臣をはじめとするガーナ政府関係者がこの発表を聴いたことが契機となり、同国政府との協力関係に発展しました。ガーナが児童労働対策の国家計画にて「チャイルドレイバー・フリー・ゾーン」構想を掲げていることを確認し、「児童労働のない地域づくり」をガーナ政府と ACE が共同で進めることで合意に至りました。



その結果、児童労働のない地域へと変貌を遂げたことを国が認定する「チャイルドレイバー・フリー・ゾーン (CLFZ)」認定の制度設計をガーナ政府とともに取り組むこととなり、2018 年 11 月 29 日にキックオフとなる第 1 回ナショナルステークホルダーダイアログ (全国関係者会合) をガーナのクマシで開催いたしました (この会議の開催報告は下記をご覧ください)。

<http://ace.japan.org/info/2018/12/24327>

今後もガーナ政府関係者との協議を続け、向こう一年以内の制度化を目指しています。

*注) CLCCG: Child Labour Cacao Coordinating Group

4. CLFZ の意義と今後の展望

CLFZ 認定制度を確立しガーナ全土へ広げることによって、今まで ACE が単独で小さな村単位でプロジェクトを行い児童労働を解決していたモデルを政府の力で国全体に広げることができるようになります。

その結果として、ガーナ全体を「児童労働のない国」へと導くとともに、カカオをはじめとするガーナの産品が「児童労働フリー」という付加価値により国際市場において競争力を獲得する可能性が期待できます。

さらには、このガーナモデルをグローバルに広げることで国際標準化し、「児童労働フリーゾーン(国)」で生産された産品が貿易において優遇されるルール形成を目指すことも可能ではないかと考えています。

これらの取り組みを推進することにより、「2025 年までに児童労働を終わらせる」ことが掲げられた、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) ターゲット 8.7 の達成に貢献したいと考えております。

5. チョコレートプロジェクトの 10 年の歩みを振り返るイベントを開催

「1 チョコ for 1 スマイル」キャンペーン他を通じて大口支援をいただいている森永製菓株式会社をはじめ、支援地産カカオの使用による製品化を通じて ACE のプロジェクトを支援して下さるパートナー企業および業界関係者の皆さまとともに、ACE の 10 年来の活動を振り返り、その成果を共有するイベントを下記の概要で開催いたします。

このイベントでは、プロジェクトのこれまでの道のりについてのトークセッションのほか、日本唯一のチョコレートに特化したジャーナリストでもある、ショコラコーディネーターの市川歩美さんをナビゲーターとしてお迎えし、支援地産原料を使用した商品を実際に手にとりテイスティングすることができます。

なお、当イベントは報道関係者の皆さまにもぜひお越しいただき、取材していただけますよう、よろしく願いいたします。

ACE 「しあわせへのチョコレート」10 周年記念イベントの概要：

- テーマ： ガーナ政府を動かした、ACE チョコレートプロジェクトの 10 年とこれから
- 日時： 2019 年 1 月 22 日 (火) 19:15～21:00
- 会場： レンタルスペース hanami 2 階 (東京都渋谷区神宮前 5-3-8)
- 内容： トークセッション、チョコレートテイスティング&ネットワーキングタイム

詳しくは下記の URL をご覧ください。

<http://acejapan.org/info/event/20190122>

以 上

◆本件に関するお問い合わせ先

認定 NPO 法人 ACE(エース) 広報担当： 桐村
TEL: 03-3835-7555 MAIL: press@acejapan.org